



第 1282 回例会報告

平成 24年8月23日(木) 晴

【8 月は会員増強月間】

会長挨拶

会長 蒲地整志

性善説と性悪説

性善説 孟子の説

人間の本性は善であり、仁・義を先天的に具有すると考え、それに基づく道徳による政治を主張した。

性悪説 荀子の説

人間の本性は悪であるとして、礼法による秩序維持を重んじた。

人間の本性が善であるか？ それとも悪であるのか？ 学生の頃、とても悩みました。

凡人が考えるに、心の中には善と悪の両方があるような気がします。時には善が顔を出し、時には悪が顔をだします。

日本を含めて、最近の国際間の争い事や、人類の歴史を考えると、どうも人間の本性は悪としか考えられません。大変悲しいことです。

しかし、ロータリークラブの奉仕活動をするときは、明らかに「人間の本性は善である」と考えるべきだと思います。

そうでなければ、奉仕活動など出来ませんよね。

◇幹事報告◇

【報告事項】

1. 8月のロータリーレートは80円です

2. ロータリー財団、米山奨学会の2011-2012寄付実績報告書などが届いています。精査しましたが、間違いのないようです。

昨年度実績が今年度クラブ計画書の寄付回数に反映されていなかったもので、次年度へ申し送ります

3. 2600地区2011-2012年度物故者リストが届いています。

4. 2600地区東日本大震災義捐金実績と報告、2011-2012年度ダメゼッタイ運動などの寄付実績など各種実績が地区から届いています。

5. RIからofficial Directory(公式住所録)のCDが届きました。説明によると「あなたが世界のどこかへ行ってその地域のロータリークラブに参加するのに役立つでしょう」ということです。ご入用の方は連絡ください。コピーを差し上げます。

【受領文書】

諏訪RC、岡谷エコーRC、大津中央RCからウィークリーが届いています

■ニコニコ BOX

24名	28,000円
累計	196,000円
目標額	130万円
達成率	15.1%

■今週のこぼ

■出席報告

会員数	36名
出席対象	36名
出席者数	24名
出席率	66.7%
前回修正	83.3%

■次回のプログラム

9月6日
ロータアクトについて
新世代奉仕委員会



富士見ロータリークラブからクラブ計画書が届いています

◇委員会報告◇

社会奉仕委員会

「EMダンゴの投入」が、8月25日朝7時、諏訪湖博物館前で行われます。

第 1282 回例会

ロータリーの会報・広報について

クラブ会報・雑誌広報委員会

本日は、三井章義パストガバナーをお迎えし「ロータリーの会報・広報について」という演題で卓話をいただきました。いつに変わらぬお元氣な姿で豊富な知識から楽しくためになるお話をいただき、ロータリーに関する見識の深さに心から感動しました。お話しされていましたように今後も諏訪湖ロータリーにたびたびおいでいただければうれしい限りです。

三井章義パストガバナー卓話

本日は卓話にお招き頂きありがとうございます。久しぶりに訪問させていただきました。

諏訪湖クラブについては、いつも活発に奉仕活動に取り組んでいるクラブという印象を持っております。

前年度も賞を受けています。チェンジ・メーカー賞と第2ゾーン(9地区657RC)最優秀チェンジ・メーカークラブ賞を受賞しております。立派なことです。さて、先日林洋三委員長がお見えになって、「ロータリーの会報・広報のありかた」について話をしてほしいとご依頼がありました。またそれ以外の話でも良いと言って下さったので、お引受けをいたしました。出来るだけ委員長のご意向にそってお話しをさせていただきます。

こちらのクラブの委員会構成はCLPに基づいて、公共イメージ委員会としてまとめております。会報・雑誌・広報がそれぞれ別々の委員会でした。クラブの会員数が多い時代は充分対応できましたが、今はどのクラブ



も委員会の数を減らす方向にあります。従って比較的似通った委員会を一つにまとめております。会報・雑誌・広報の三つを一つに。この三つはいずれもロータリーの奉仕活動の情報を発信するという点で共通しております。ただし発信の対象や情報の内容は少しずつ異なっております。

先ず会報は会員を対象にして、クラブ内の活動を発信しています。また、月信は地区内の全ロータリアンに対し、地区内のクラブやグループや委員会の活動を知らせます。

雑誌即ち「ロータリーの友」はわが国のロータリーの奉仕活動を中心にして世界各地の活動やR1の活動やロータリー財団の活動を知らせています。従って、この委員会の活動は、かなり大変だろうと考えます。またそれ故に非常に重要な委員会でもあります。

広報はロータリーの奉仕活動を、広く社会に向けてPRするものですから、重要な仕事ですが、その方法は難しいと思います。その他にクラブには情報委員会があります。この委員会の仕事はロータリーの生い立ちから現在までの、ありとあらゆることを取り扱うことになっています。しかし、一番大事なことは今世界中のロータリークラブがどんな奉仕活動をしているか、そしてどんな考え方で社会と向き合っているかを会員に伝えることだと思えます。特にR1の理事会の考え方や方針を皆様にお知らせすることです。また、来年は3年毎に開かれる規定審議会の決定をお知らせする責任があります。

個別に見てみたいと思います。

先ず、会報は週報とかウィークリーと呼ばれ、クラブによって名称は違いますが、内容は大体同じです。主に例会の内容が掲載されておりますので、欠席した会員もそれを見ればクラブの動きがわかります。同時にクラブ活動の記録として、大事な資料ともなります。ですから正確に且つ豊富な内容が求められますが、一方では速報性も大事にしなければなりません。特に卓話の内容を的確に、且つ要約して載せる必要がありますので、委員の方の腕の見せ所です。

次に月信はガバナーズ・マンスリーレターというのが元々の名前で、最初はガバナーが会員に対して手紙を出したもので、何時の頃から今のようなになったのか知りません。月信ですから毎月一回出しますが、13号で1年間の「まとめ」を出します。この月信は毎月ですので、原稿を集め編集

するのに大変な苦勞をします。どうか読んであげて下さい

雑誌についてお話いたします。

ロータリーの公式雑誌は「ザ・ロータリアン」です。R1が発行するもので英文の雑誌です。ロータリーの三大義務の一つで、このザ・ロータリアンを購読することが義務付けられています。しかしながら言語の壁があって仲々読んでもらえません。仕方なくそれぞれの国は自国語で雑誌を発行しておりました。これらの雑誌は長い間非公式な雑誌でしたが、1977年(昭和52年)に、ザ・ロータリアン誌か或いは指定された地域雑誌を購読すればよい、ということになりました。

「ロータリーの友」がロータリー地域雑誌として正式に承認されたのは1980年(昭和55年)の7月号からです。

地域雑誌の指定を受けるためには、いろいろな条件があるのです。先ず第一にR1と契約を結び4年毎に契約を更新しなければなりません。またR1指定記事と呼ばれるザ・ロータリアン誌からの転載義務のある記事を載せなければなりません。しかし、それらの規則は編集方法や内容に深くかかわるものではないので、地域の特性やその地域のロータリアンの希望に合わせて自由に編集をしています。「ロータリーの友」は他の雑誌にないよな横組みと縦組みから成り立っております。横組みは、ロータリーの公式的な記事やR1指定記事が中心で、縦組みは国内のロータリアンの情報を共有したり、意見交換ができるページがあります。「ロータリーネットワーク」や「友愛の広場」などでは会員からの投稿を掲載しています。現在、地域雑誌は30の地域で刊行されております。

新しい動きとしては2010年の規定審議会での採択によって電子版でザ・ロータリアン誌を受けとることができるようになり、アメリカとカナダでは実施されているようです。話は横道にそれますが、Eクラブというクラブがあることをご存じですか？

これはロータリーの正式のクラブでR1の会員で、通常のRCと同様に機能するものです。ただし会員は直接顔を合わせるのではなく、コンピュータを通じてオンラインで例会を開くわけです。世界の各地に誕生しているようですが、一地区に2クラブという制限があります。

6月2日に「東京米山ロータリーEクラブ2750」という長い名前のクラブが日本で3番目のEクラブとして創設されました。創立会員27名のうち米山学友が16人、会員の国籍は7カ国にわたるそうです。スポ

ンサークラブは2年前に創立した東京米山友愛ロータリークラブです。

このように新しい時代が訪れて、ロータリーも様々な面で電子化が進んでいくと思います。私にとっては住みにくい世の中になって参りました。ぶつぶつ文句ばかり言っていますが、おいていかれるばかりです。歳はとりたくないですね。

インターネットの発展はロータリーにとってどんなメリットがあるのでしょうか

第一には新しい情報が次々と掲載されます。速報性があります。

第二には印刷物に載せる情報には限りがあります。

第三には自分にとって必要な部分だけを取り出せます。

第四には各クラブのホームページを見ることによって、様々な活動を知る。

その他様々なメリットがあります。

話が変わりますが、

最近、米山の事務局から私のところへ、書類を郵送せずEメールで送るからEメールを開設してくださいと言ってきました。何をどうやっていいかわからないので、娘に頼んでやってもらいました。米山の会議の通知や「よねやまだより」などが次々と入ってきます。私はただ驚いているばかりです。そのうちにスマートホンだかタブレットだかというものを買ってきて、電源を入れ、指で画面をさわるとEメールやクラブの情報が即座に見ることができると置いていきました。でも未だ使いこなすことができません。いずれにしても情報を得る手段が多様化してきたり、便利になることは良いことだと思います。

私たちが奉仕活動を活発に行うためにも、ロータリーの情報は必要であります。

今まで述べてきたもの以外に情報を得ることが出来るものを申し上げます。

ロータリー文庫の活用、東京芝の黒龍ビルの三階にあり、ロータリーに関する様々な文献が揃っております。欲しいものがあればコピーしてくれます。2600地区の月信の裏表紙に新しく文庫に入った本などの紹介が載っています。

黒龍ビルの三階には米山奨学会の事務局があります。また四階にはロータリーの友事務所があり、ロータリーの情報の拠点の観があります。

ロータリーにはクラブ・レベル、グループ・レベル、地区レベル、ゾーン・レベル或いは国際レベルの様々な会合があります。

クラブ・レベルで先ず例会、クラブアセンブリー、新

会員セミナー

グループ・レベルではIM

地区・レベルではペッツ、地区協議会、会員セミナー(米山・R財団)地区大会

ゾーン・レベルではゾーン研究会、R財団セミナー

国際・レベルでは国際大会 ブースでの展示

これらの会合では、ロータリーの諸問題が話し合われますので、新しい情報や重要な情報を入手することが出来ます。

さて、R1が力を入れているのが後方であります。

広報とはロータリーが実践している奉仕活動を広く一般社会に向けて情報発信をすることです。ロータリーのことを広くPRすることです。ロータリーは広報が下手であると言われております。外国のロータリーのことは知りませんが、確かに日本のロータリーは下手だと思います。1926年(大正9年)に日本で最初のロータリークラブを作った米山梅吉さんをはじめ我が国経済界のトップの人々の考え方や思想がロータリーに色濃く反映していたと推察します。その頃のロータリーの先達の方々には恐らく自分の実践してきた立派な業績を自ら語るようなことは恥ずべきことだと考えていたと思います。日本の社会も現在とは大違いで、「陰徳」と言う言葉の通り、なるべく人に気付かれないようにして「奉仕」とか「善行」を積んでいくことが立派なことである、という共通認識があったと思います。私が入会した45年前には、諏訪クラブの中にもそんな空気がありました。自己PRは一切駄目でした。謙譲の美德という言葉もありましたね。確かに自分のPRばかりしている人は嫌味です。

でも今の世の中、遠慮ばかりしていると、おいていかれてしまうのも事実です。

PRは難しいものですね。

奉仕には見返りが無い、また見返りを求めないのが奉仕であります。

陰徳とか謙譲に奉仕の精神の真髄があると考えます。

しかし、今の社会は昔と違ってグローバルとなり、また複雑になっております。世界の隅々まで情報が行きわたり、更に昔は知り得なかった様々な社会問題が私たちの目や耳に入ってきます。そして同じ地球という星に暮らす同じ人間同志として、放って置けないという気持ちが奉仕活動に私たちを駆り立てているのだと思います。

困っている人を助けるのは当たり前のこと、病気の人を救ってあげるのは当たり前のことです。

当たり前のことを、当たり前他に人々に知らせる

ことは、何等非難されることでもないし、また特に賞賛されることでもないと思います。

ロータリーは世界的視野でどんな活動をしているのか。

ロータリーは地域社会でどんな活動をしているのか。

このことを広く社会の人々に知ってもらうことは、社会に対して刺激を与えるとか何かのヒントになることもあるでしょう。そして社会の人々の理解を得ることにより我々の活動もやり易くなるかも知れません。

広報広報とお題目ばかり唱えていても始まりません。

奉仕活動がなければ広報はありません。

諏訪湖ロータリークラブはフィリピンの学校にピアノを贈る活動を熱心にやっております。だから何度も新聞に載るのです。社会に対して知らせることが必要だとマスコミが判断したから記事になるのです。ここに正しい広報の姿があると思います。

マスコミと上手に付き合うことが大切であると言う人がいます。常日頃からマスコミの人と仲良くなることは悪いことではないと思います。どんな情報でも良いから、自分のこと以外の情報を伝えてあげることが良いと思います。取り上げる、上げないは、マスコミが的確に判断してくれますから。副産物として広報は会員増強につながるかも知れません。国際ロータリーの実績は世界中のクラブの奉仕活動の実態が集まったものです。

諏訪湖クラブの奉仕活動は素晴らしいと思います。林委員長は本年度のクラブ計画書の中で、広報誌を発刊したいと述べております。この考えは、私は今まで聞いたことも見たこともない素晴らしい発想だと思います。こういう発想が生まれるということは、クラブが様々な奉仕活動を実践していることと、それが継続しているからだだと思います。

どうぞ是非共実現していただきたいと思います。

諏訪湖ロータリークラブのご活躍と益々のご発展をお祈りしながら、話を終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

この原稿は、卓話終了後例会場にて手渡されました。今日の卓話のためにこれだけ周到な原稿を用意された三井バスターガバナーに心より感謝申し上げます。

そして、お話の中にもありましたように電子化に対応できないということで手書きであったことにも感動しました。